

命を救うために

でやることに



～「救急現場」の現状～

急病や事故など、もしもの時に駆けつけてくれる救急車。大切な命を守るため、市消防署には、30人の救急隊員が勤務し、3台の救急車が24時間体制で待機しています。

救急業務を担う救急隊は、応急処置から救急救命士が行う高度救命処置までを行います。

本市には、高度救命処置を行うのに必要な救急救命士への助言・指示を行える医療機関が3カ所あり、救急救命士への指導・助言が24時間徹底されています。本市のように面積の小さい地区に指示病院が3カ所も集中的に点在する地区は他に例がないそうです。

また、平成23年からは重篤な傷病者を市外の医療機関へ搬送するため、ドクターヘリの活用も行われており、救急体制のさらなる整備が図られています。

救急車の出場状況

本市の救急出場件数は、左上表のとおりです。過去5年間をみても、出場件数は徐々に減ってきているもののいずれの年も1000件を超えています。また、搬送人員と重症度別を見てみると、軽症者の割合は、14～18%となっています。



▲普通救命講習会

命を救うためには、現場に居合わせた人の勇気と迅速な行動が必要です。勇気を出して、迷わず心肺蘇生法とAEDを使ってください。救急車が現場に到着するまでに、救命処置を行った場合と行わなかった場合とでは、生存率や社会復帰率が大きく異なります。そばにいるあなたにしか救えない命があります。いざという時のために救急処置法を身に付けておくことが大切です。

皆さんは、もし目の前で誰かが倒れたときに適切な処置ができますか。あなたの行動が、目の前の人の命を救う助けになるかもしれません。救急隊が到着

られています。本市の救急業務は、市内医療機関への搬送が、転院搬送を除き95%以上となっていて、市内の医療機関で救急業務が完了しています。しかし、このような恵まれた環境の中でも、人口減や市内医師の高齢化等の課題もあり、今後は、行政と医師会等のさらなる連携が重要となってきます。

私たちにできること

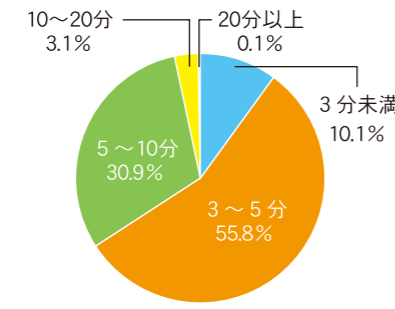
救急車が到着するまでの間、私たちに何ができるのでしょうか。市消防署救急救命士の久保年生さんに話を聞きました。「心肺停止になってから約3分を経過すると生存率が50%以下となり、傷病者は非常に危険な状態になります。私たちが現場に到着するまでの平均時間が4・8分ですので、救急隊が到着した時には生存率が低下しているということも考えられます。

●出場状況及び重症度別

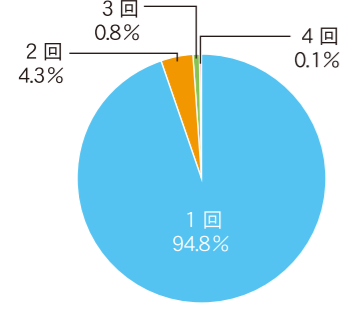
| 年 | 出動件数 | 搬送人員 | 重症度別 | | |
|-------|-------|-------|------|-----|-----|
| | | | 重症 | 中等症 | 軽症 |
| 平成22年 | 1,045 | 996 | 352 | 459 | 185 |
| 平成23年 | 1,133 | 1,104 | 373 | 574 | 157 |
| 平成24年 | 1,088 | 1,042 | 356 | 536 | 150 |
| 平成25年 | 1,051 | 999 | 328 | 520 | 151 |
| 平成26年 | 1,030 | 1,002 | 339 | 517 | 146 |

救急車は、けがや急病等で急に病院に搬送しなければならぬ傷病者のためのものです。緊急性がないにも関わらず救急車を呼ぶと、本当に救急車を必要とする事故等が発生した場合に、到着が遅れたことで救える命が救えなくなることもあります。緊急性がなく、自分たちで病院に行ける場合は、救急車以外の交通機関等を利用するようになりましょう。しかし、傷病者の様子や事故の状況から緊急性の判断に迷った場合は、迷わず119番通報をしてください。

●出動から現場到着までの時間 (平成26年度)



●医療機関への問合せ回数 (平成26年度)



枕崎市消防署救急救命士 久保年生さん

interview

枕崎市医師会 鮫島秀弥 会長



枕崎市は、休日や平日の夜間の救急輸送が非常に充実している地域だと思います。圏域内搬送率も高いですし、圏域外からも多く受け入れをしています。県内を見ても救急に関しては非常に恵まれた地域だと思います。枕崎市医師会は、行政とも連携し、さらなる救急体制の向上に努めていきたいと思っています。市民のみならずには、いざという時に目の前にいる人を助けるためにも、ぜひ救急処置の方法を学んでいただきたいと思います。毎年9月頃開催される「市民健康教室」では、心肺蘇生法コンテストなども行って、救急について学ぶ機会でもありますので、ぜひ参加してください。

問合せ 消防本部 TEL 7210049